

4.27
450

◎日本原毛糸織團の家族諸君に激す

會社不誠意と惡辣な切筋にふんかいた五日の朝からストライキで始めた取初は尻雜して居つて全従業員が死
業に參加するものと却出来ず切つたが昨日今日生體と全従業員は乗り込んた。狼狽した會社は従業員に便を
従業員の家宅を訪問し女工さんの父母さまを誘惑して女工さんと寄宿舎を連れ出す懸念を謀りて上裏切
らしたると思ふ一方寄宿舎の女工さんは會社に雇われなまらなかりながらに來てくれと血のいじむ
様を手紙で全従業員にもこころを根柢から胃腹を犯して逃げたといふ事居る位である。何と云ふまじい話では
ないか。下大事な娘も會社に裏切りして世間の物笑ひにさせ、會社の悪意に思ひの儘にさせること、我々は
親としての心事と解し兼ねるものがある。年次が解決してみれば、會社に入る時「裏切り者」はと當
こらねてその娘さんは何うして工場に働いて居るお孫か、森岡史合會の團體を全従業員が全
下揚げて謝罪すると今改め、総務の前には諸君の御意見を考慮を願ふものがある。

要約の真意を期しお家族諸君は聲に應援せられたい。
裏切りは生涯の恥である。

會社にのみまゝに命令に従ふ者は今の中にも居るは之れ
昭和二年四月七日

日本労働組合同盟関東合同労働組合

各位

労働局長
4月7日

労働部 第一〇六二號

昭和二年四月二十三日

警視總監 室田光雄

内務大臣 鈴木喜三郎 敬

社會局長 宮田國隆 一 敬

大阪神奈川兵庫愛知福岡

福岡埼玉秋田

各府縣知事 敬

日本原毛株式會社労働部事務二関する件 (第一三報一)

首領事務の會社側一切消滅、奏効するに及ばず、誠實に處す